

## いえしま学・瀬戸内の環境を活かした自然体験活動 兵庫県立家島高等学校

### 学校の概要

#### 学校規模

学級数：6学級

生徒数：190人

教職員数：25人

#### 体験活動の観点からみた学校環境

本校が立地する家島町は、姫路から南西に18km離れた、瀬戸内海・播磨灘に点在する家島群島に位置している。平成13年現在、家島、坊勢島、男鹿島、西島に約8,500人が暮らしている。

瀬戸内海国立公園の一部を成す家島町は、豊かな緑、青い海など美しい自然に恵まれ、風光明媚な景観が広がる。また、入り組んだ海岸線は、塩待港として万葉集にも歌われるなど、古来より天然の良港として知られている。

産業面でも文化面でも、海から多くの恩恵や影響を受けている。現在でも、採石業、海運業、漁業に多くの町民が従事し、基幹産業となっている。

高速船が就航し、便数も増加するなど、交通の利便性が向上したことにより、平成10年度からは姫路から通学する生徒も多くなった。

#### 連絡先

〒672-0102

兵庫県飾磨郡家島町宮1759-1

電話：07932-5-0165

FAX：07932-5-1188

電子メール：

ieshima-hs-ad@hyogo-c.ed.jp

### 体験活動の概要

#### 活動のねらい

地場産業（採石業・海運業・漁業）を家島の自然との調和の中で発展させ、地域に貢献できる心豊かな人材の育成を目指す。

体験活動を通して、学習意欲の向上や学習したことがらの深化・統合を図る。  
主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

海洋スポーツ訓練

(体育科授業として3時間)

海洋スポーツ大会

(学校行事4時間)

松島デイキャンプ

(学校行事6時間)

ししじま巡り

(学校行事2時間)

ガット船見学

(学校行事2時間)

山の学校・海の学校交流会

(生徒会活動)

#### 体制等の工夫

地域の人材の活用

家島地区の生徒をリーダーとして下級生を指導(ガット船見学)

#### 活動の成果等

家島の地場産業や歴史、伝統などを再認識することができた。

本活動によって、本校教育方針である「地域社会の発展に寄与する人材を育成」するための態度を養うことができた。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

瀬戸内海国立公園の東部、播磨灘に位置する家島町。白砂青松の海辺とその背後に広がる緑の森。その恵まれた自然の中で、小規模校の特色を生かし、生徒一人一人の顔の見える体験活動を行うことで、美しい地域の自然や伝統文化を愛し、守り育てる意欲と態度を培うとともに、家島町の中心産業である採石業・海運業・漁業を自然との調和の中で発展させ、地域の将来に貢献できる、心豊かな人材の育成を図る。



家島群島

本校では、体験活動を学習意欲の向上や学習したことがらの深化・統合を図るものとして位置付け、教科の学習指導や特別活動（学校行事など）において、実施時期や活動内容を十分考慮して、学校の教育活動全般に有効に取り入れる工夫をしている。

また、家島町は、地場産業や伝統文化などについて生徒が学習を深めるための支援と協力を惜しまない土地柄である。そのため、家庭や地域との連携を積極的に図り、その教育力を有効に活用することで、生徒に地域社会の一員であることの自覚を養わせたいと考える。さらに、その過程を通して地域の方々とのコミュニケーションを円滑に図る能力を高め、豊かな人間関係を育ませることも目標としている。

### (2) 全体の指導計画

#### ア 活動の名称

「いえしま学」

#### イ 活動の詳細，実施時期，実施学年，活動内容，活動場所

活動の詳細(実施時期)	実施学年	活動内容(活動場所)
海洋スポーツ訓練 (7月)	全学年	学級別にカヌーとローボートの訓練を行う。 (家島町にある海洋センター)
海洋スポーツ大会 (7月)	全学年及び P T A	海洋スポーツ訓練を踏まえ、クラス対抗，個人対抗の競漕大会を行う。P T Aも参加 (家島町にある海洋センター)
松島デイキャンプ (10月)	第2学年	無人島で、魚介類・海藻類・植生の観察，スケッチ，詩作等グループ別課題学習を行い，瀬戸内に位置する家島諸島の自然を愛する態度と自主学習の態度を育てる。 (兵庫県青年の島「松島」)

ししじま巡り (10月)	第1学年	44島あるといわれる家島諸島を船で巡り、家島の再発見と歴史及び成り立ちを学ぶ。また、無人島に上陸し体験活動を行う。
ガット船見学 (11月)	第1学年	採石業、海運業、漁業は家島の中心産業である。砂利石材を運ぶガット船の見学を通じて郷土への理解と愛着を深めさせる。 (本校近くの「網手の浜」の造船会社に依頼)
山の学校・海の学校 交流事業(8月,2月)	生徒会活動	山の学校である県立千種高等学校と海の学校である本校が、お互いの地域を訪れ、交流を図る。8月は、家島諸島の坊勢島で開催された「ぼうぜペーロンフェスタ」に合同チームで出場した。2月には千種高原でスキーを行う。

#### ウ 教育課程上の位置付け

学校行事として位置付けている。

#### エ 継続の状況等

「ししじま巡り」、「山の学校・海の学校交流事業」は、本年度から始めた事業であるが、その他は本校の伝統行事であり、以前から継続している。

### 2 体験活動の紹介

#### (1) 海洋スポーツ訓練・大会

##### ア 活動の実際

##### (ア) 事前指導

海上遊戯の楽しさを味わわせるとともに、海の危険性も十分に認識させるため、カヌー、ローボートの乗艇、漕艇の方法及び海でのマナー、ルールを徹底して指導する。

##### (イ) 活動の展開

##### 活動の場所と施設

本校から歩いて30分程のところにある、家島町にある海洋センターの施設を利用する。また、当センター職員に、乗艇、漕艇方法等の技術指導を受けた。

##### 活動プログラム

次ページの表の順序で、学級ごとに訓練を行った。まず、漕方の説明をセンター職員から受け、その後各自が実際にカヌーやローボートに乗り、訓練を行った。



ローボート，スタートラインへGO！

最終日の13日は、海洋スポーツ大会として実際に競漕を行い、成績優秀者には表彰を行った。大会には保護者も参加した。

	7月7日	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日
午前	3年1組	3年2組	2年1組	2年2組	海洋スポーツ 大会
午後		1年1組	1年2組		

#### 指導者・協力者

訓練指導では、体育科教諭，養護教諭，各担任，各学年の教師数名が引率し指導を行った。また海洋センター職員にも現地指導員として，主に技術的，専門的な面で指導を受けた。

#### 生徒の活動の状況

カヌーやローボートに乗艇するのが初めての者，慣れない者も多かったが，試行錯誤しながらも，友人と楽しみながら練習できた。

また，準備・片付けの段階でも，グループ内で協力し，迅速に処理できていた。



スタート！

#### (ウ) 事後の指導

海洋スポーツ大会の競漕終了後，成績発表を行い，感想文を書かせ，次年度への反省材料とした。

また，学校新聞「播磨灘物語」に競技内容，結果を掲載し，生徒や家庭だけではなく，地域の方にも配布した。

#### イ 体験活動のための体制

##### (ア) 学校と家島町教育委員会・現地機関との連携

昭和63年の実施当初から，家島町教育委員会より施設やカヌー，ローボート等の設備の提供を受けているほか，講師も派遣していただき，現地での生徒への技術やマナー，安全に関する指導のほか，海の気象や波の状態なども含めた海洋性スポーツにおける安全確保に関して，専門的な見地から助言及び支援を受けている。

#### ウ 成果と課題

生徒は「最初は乗るのは怖かったけど，慣れてからは楽しかった。」等，自分自身を振り返る感想が多かった。保護者は子どもの成長している姿を目にし，また一緒に競漕するなどして，普段の家庭では見ることのない生徒の表情に満足していた。

#### (2) ガット船見学

##### ア 活動の実際

##### (ア) 事前指導

本活動では，教科「水産」の科目「航海・計器」を選択履修している2年生，3年生の希望者からリーダーを募り，1年生の引率や簡単な説明，船長や船員への挨拶をさせた。また，事前にリーダーを集め，説明マニュアルを作成させ，当日の役割や重点説明事項などを指導

した。1年生にはガット船に関する冊子を作成し配布した。

#### (イ) 活動の展開



船長より説明を受ける生徒たち

##### 指導者・協力者

造船会社の社長，船長，船員の協力を得て，船内外の設備などについて説明を受けた。また，引率は教頭と第1学年団の教員6名（養護教諭を含む）が行った。

##### 生徒の活動の状況

リーダーの引率のもと，船倉，船首，船底，機関室，船室，操舵室の順に見学した。船首ではクレーンの説明を本校職員が行い，操舵室ではガット船全般の話を社長，船長から受けた。家島の生徒はガット船を見る機会もあったが，姫路地区から通学する生徒にとっては，ガット船を間近に見ることも，船内に入るのも初めてであり，ガット船の大きさにただただ驚いていたようだった。

#### (ウ) 事後の指導

LHRの時間に感想文を書かせた。感想文の一部は，第1学年の学年通信及び「播磨灘物語」に掲載した。

#### イ 体験活動のための体制

##### (ア) 学校の体制

教頭と第1学年団（養護教諭を含む）が引率した。また，リーダーに対する指導は「航海・計器」担当者が行った。

#### ウ 成果と課題

第1学年は姫路地区から通学する生徒がほぼ半数を占めている。彼らは，通学時に港内に停泊しているガット船を見ることはあるが，実際に船の中に入るのは初めてであり，今回の見学は家島の地場産業の理解を深めるのに役立ったと思われる。また，島内から通学する生徒にとっては，実際に船員が業務に従事する姿を見て，働くことの厳しさなどを学び取ったのではないかと考えている。

以下，生徒の感想文を引用する。

「予想以上に大きかった。僕は高所恐怖症なのでちょっと怖かった。中に入って思ったのが，長い時間，中にいると時間がわからなくなってしまうということだ。ガット船の凄さを感じた経験だった。」

##### 活動の場や施設

本校から歩いて10分ほどの造船会社に依頼し，修理・検査中のためドック入りしているガット船を見学した。



ガット船

「ガット船は大きかった。近くで見たのは、あの日が初めてなので驚いた。船は大きいので船に登る時は高いな～と感じた。船の中は意外とスカスカだった。重いと沈むからだろう。エンジンは2,200馬力、どれくらいかよく分からないけれど速そうだった。よい経験になった。」

### 3 今後の取り組みの方法

平成15年度から、高等学校では新学習指導要領が実施されるが、今回紹介した「いえしま学」の各事業は、本校の教育方針である「地域社会の発展に寄与する人材の育成」を図るために必要不可欠なものである。そのため、今後とも各事業を拡充、発展していきたいと考えている。

また、今回は紹介できなかったが、家島町の伝統行事である兵庫県指定重要無形民俗文化財「真浦の獅子舞」は、本校生徒が中心となってその伝統を支え、守り抜いている。

「いえしま学」の多くは、地域の協力なしでは成り立たないものが多い。今後とも、離島に立地する小規模校の特性を生かし、地域に根ざした学校を作り上げたいと考えている。



本校生が舞う兵庫県指定重要無形民俗文化財  
「真浦の獅子舞」

#### 【本事例活用に当たっての留意点】

本校は、瀬戸内海に浮かぶ小さな島の学校である。採石業、海運業、漁業が主な地場産業であり、子どもたちのこれらの現場に親しみ、日常生活に深く関係付いている。そこで、このような地場産業を通して地域の自然環境を体験しようということが、本校の取組の特徴である。それは、「地域社会の発展に寄与する人材の育成」にもつながると考えられる。

活動としては、海洋スポーツ訓練、海洋スポーツ大会、松島デイキャンプ、ガット船見学など多様なものがあるが、それぞれダイナミックで、子どもにとって魅力あるプログラムのものである。海上活動は危険性もあるので、安全指導もあわせて、海でのマナーやルールの学習も行われる。地域性や地域の産業の特性を考えた、特徴のある自然体験活動といえよう。